

研究テーマ	甲州印伝への山梨県産鹿革の活用とプロダクトの試作開発		
担当者(所属)	串田賢一・渡辺誠・鈴木文晃・佐藤博紀(デザイン)・小平真佐夫(富士山研)		
研究区分	総理研研究	研究期間	平成27～28年度

【背景・目的】

近年、鳥獣による森林・農業被害が深刻化する中、山梨県では、特定鳥獣保護管理計画に基づいてニホンジカの個体数調整に取り組んでいる。

駆除されたニホンジカのほとんどが廃棄処分される中、一部の町村では良質な天然資源として有効活用すべく食肉への加工が推進されているが、その残渣となる皮は廃棄処分されている。このニホンジカの皮を有効活用するためには、より付加価値の高い製品開発を行い、有効活用の事例・エビデンスづくりを推進していく必要がある。

本研究は、本県ニホンジカ由来の皮革を甲州印伝の素材として利用するための取組を行い、森林環境や農業被害の問題と伝統工芸振興を結びつける中で新たな価値づくりに資することを目的とする。

【得られた成果】

富士山北斜面に生息しているニホンジカの捕獲～活用をモデルケースとして、次の内容で実施した。

1. 鹿皮のなめし・染色加工及び物性評価

環境的に許容可能ななめし方法(ノンクロム・ノンホルムアルデヒド)を用いて鹿皮なめし及び物性試験を行った結果、(1)無漂白・無染色の白色のなめし革を得ることができた、(2)得られた皮革の物性値は現行のキョン革と遜色ないこと(表1)等が分かった。

2. ニホンジカ革を使用したプロダクトの試作開発

得られたニホンジカ革の加工性を評価し、今後のなめし加工への知見を得るため製品試作を行った。試作は革の大きさを生かし、トートバッグ、シャツジャケット、クラッチバッグ、PCケースの4点を製作した(図1)。

表1 印伝加工用に調整したニホンジカ革とキョン革の物性評価

JIS	試験項目	ニホンジカ革	キョン革	
K6500	伸び (%)	81	67	
K6500	吸湿度 (%)	84.8	35.0	
L1092	はっ水度 (級)	3	4	
K6544	吸湿度 (mg/cm ²)	2.73	2.69	
K6545	耐屈曲性 (級) // 60,000回	∥	5	5
		⊥	5	5
K6549	透湿度 (mg/cm ² /h)	19.3	27.2	
K6500	引張強さ (Mpa)	20.7	22.0	
K6500	引裂強さ (N/mm)	37.6	28.1	
K6500	厚さ (mm)	0.93	0.89	
K6546	半球状可塑性	24h後	67	60
		73h後	65	59



図1 試作開発したニホンジカ革プロダクト(トートバッグ(左)、クラッチバッグ(右))

【成果の応用範囲・留意点】

印伝製品の企画・製作は、新柄の開発を含め、来年度に取り組む。

現状のニホンジカ革は銀面つきでの仕上がりとなっている。